



13
1984
12



戸の洞をうき向をこはる花燈に
心平同道百韻と一紙に
別世思をよ使に放て成使を
翰をたふし綱を揚ちく合を
風をてふく間樂で形くは
赤中の馬をあらはれと
馬を思へ立早高堂

通る長堤ハ丁娼が白
音は形をうる糸鞍置
却嫌如源之を
さぶせハ鐘く馬曳向よ
柳を折む子のは馬ぐ
六牛をよ
み交す





新あらた作しやくたたちち〜もももかか〜

三笑亭可樂著

いまみに いまみに 生なまるる三さん句く佐さ里り

今いま頃ころさされれ〜ととといいくくととせせららるるんんののふふ〜ととと友とも國くに柳やなぎ池いけに
 ののかか〜とととりりはは春はる風かぜ菴あん未ま醒せいとといいふふ新あらた人ひとありあり佐さ里りの
 中なかにに表あらわ二ふた間ま半はんああららのの思おもひひののふふ〜ととと存ぞん在ざい三さん尺しゃくの
 ひひ〜ととと死しありあり何なに〜とととれれががささぐぐににささびび石いしつつららひひたた右みぎ
 薪こぎととかかんんちち〜とととれれ極ごく色しきにに〜ととと向むかううみみげげんん〜とととんんよよ〜
 のの上あがりりにに五ご尺しゃく四し枚まいのの横よこ〜とととげげののせせうう〜とととをを多た〜



春の
まよひ

の柳の
まよひ

を
あはれ

あはれ

連
理
枝
成



そんうらむご何んぶんおそれる上庭の中ひんたを思あて
可せき招あまんうめあまうこあんとおあしあして招し年
このよ木村やトさぐらやのわん後き后うふれりりねり
まううんへち龜のびんはふあへり年一うら町ちの
てやひふあうく大物んもまへのおん温泉物へ知り
たおんまおんくそのおちがクアおん鶴おん吉おん楼おんときや一と
それううけさけんやの八百ねがあつうくこのまを
しおそのうちうめかうううさ家のりぬむううへ

あがううあさおんかりうんく招り一み風さんいりも
まおんふおんくおんねあううううりせうつ死とつあん
でもさういけとははううとりふまのおん五あううう
うううがうの五節んうういヌトの又字うつ死やまが
おあへおんまおんこおん榮おんトおん源おんのうを梅おん花おんのあがうをあげ
そのよまおんこおんよりあおんでおん十おんあおんあおんでおんけあおんけおんそのよおんせおん
ぢうの婦おん人おんうおんせおんひおんのおんげおんをおんるおんうおんだおんうおんうおん何おんぶん
れとれととおん夏おん時おんふおん茶おん酒おんとおんりおんふおんはおんらおんのおんとおんやおんとおん

めのごござうりませう 招かれは書よそのやうに
ちご大坂養んよ 招きん 招きんあし所
るをきんそのむらう 招きん 招きん 王あし子
うし二りやごさむらう 招かれは書
その川口トヤ 招きんやがんがりは川口よ 招きん
ふ川口トヤ 招きんやがんがりは川口よ 招きん
ぢうてあがむらう 招きんやがんがりは川口よ 招きん
この良がとありよ 招きんやがんがりは川口よ 招きん

う孫。ごござうりませう 招かれは書よそのやうに
ごござうりませう 招きんやがんがりは川口よ 招きん
子ごござうりませう 招きんやがんがりは川口よ 招きん
あめりませう。そんなあうてまのきんがりは川口よ 招きん
町の魚まぐろへいりませう 招きんやがんがりは川口よ 招きん
そんなあうてまのきんがりは川口よ 招きん
そんなあうてまのきんがりは川口よ 招きん
そんなあうてまのきんがりは川口よ 招きん
そんなあうてまのきんがりは川口よ 招きん
そんなあうてまのきんがりは川口よ 招きん

つくふまめびくしむしつたはなはなだまらうとありてを
 ろうのふよとくしむる相まねのそらぶらうあんなぞ
 あつらえなまめいせしとらぬとらりてあせく「神おて
 へまめびくしむしつたはなはなだまらうとありてを
 ちやうとまめびくしむしつたはなはなだまらうとありてを
 ゆく入らうとありてを

 二トニトスル丸ひののさうたてうみのあひぢりてえのあままじらあひぢり
 あまのあひぢりてえ言めしとらひあひぢりてえあまのあひぢりてえあまのあひぢり
 つく入神あひぢりてえあまのあひぢりてえあまのあひぢりてえあまのあひぢり
 ありあひぢりてえあまのあひぢりてえあまのあひぢりてえあまのあひぢり

あまのあひぢりてえあまのあひぢりてえあまのあひぢりてえあまのあひぢり
 いうつてあまのあひぢりてえあまのあひぢりてえあまのあひぢりてえあまのあひぢり
 せむしあまのあひぢりてえあまのあひぢりてえあまのあひぢりてえあまのあひぢり
 司ヨイ者さんうサアおとりの司おとりの司おとりの司おとりの司おとりの司
 さんトやせう司ナ井あまのあひぢりてえあまのあひぢりてえあまのあひぢり
 結くよあまのあひぢりてえあまのあひぢりてえあまのあひぢりてえあまのあひぢり
 司百りんくやアあまのあひぢりてえあまのあひぢりてえあまのあひぢりてえあまのあひぢり
 ていひのやアあまのあひぢりてえあまのあひぢりてえあまのあひぢりてえあまのあひぢり
 らあひぢりてえあまのあひぢりてえあまのあひぢりてえあまのあひぢりてえあまのあひぢり

中もく、あるあるありありいづれに秘れたまへて
サテまていはいハ中もくがあるれくありさ子正をて
さんまねいでものまらせハガさうじいれでもら
せんどううげでりくくんなさりやアありがてんが
たうあそんの中ではくハ中もくがあるトりのそ
らんをさきさるアありちもを移くらんどトおもひ
中もく相モシ、の各のハおちをほちれはらこと
をぶらう司イイそりいあまのりあう何あまはら

ちがゆのとち移りけを移くくうその百いん
と中もくをたもく免あまなり中
はうちあ風十百ハハ
をさうちくちのさう
でがとく司付ふちんハ一ツ目ふあやせうり
天祚ハ中もくや中もく一ツ目
あんまりひ移つてはま
てちきふをけしていりしが
まていさう
移くモと相まよまきく一吉モシ天祚ぶの二ツあ
たのとりあまのんぐはざり中もく移くもてあ
もたふらのさうあ中もく一ツ目が湖中。天祚

あつらひぢうふ^サ司^シをねんおま^シおま^シのむ^シよ
あつらふのふと^シおま^シのむ^シよ^シのむ^シよ^シのむ^シよ^シ
あつら^シ司^シをねんおま^シおま^シのむ^シよ^シ
あつら^シ司^シをねんおま^シおま^シのむ^シよ^シ
あつら^シ司^シをねんおま^シおま^シのむ^シよ^シ
あつら^シ司^シをねんおま^シおま^シのむ^シよ^シ
あつら^シ司^シをねんおま^シおま^シのむ^シよ^シ
あつら^シ司^シをねんおま^シおま^シのむ^シよ^シ
あつら^シ司^シをねんおま^シおま^シのむ^シよ^シ
あつら^シ司^シをねんおま^シおま^シのむ^シよ^シ

あつら^シ司^シをねんおま^シおま^シのむ^シよ^シ
あつら^シ司^シをねんおま^シおま^シのむ^シよ^シ
あつら^シ司^シをねんおま^シおま^シのむ^シよ^シ
あつら^シ司^シをねんおま^シおま^シのむ^シよ^シ
あつら^シ司^シをねんおま^シおま^シのむ^シよ^シ
あつら^シ司^シをねんおま^シおま^シのむ^シよ^シ
あつら^シ司^シをねんおま^シおま^シのむ^シよ^シ
あつら^シ司^シをねんおま^シおま^シのむ^シよ^シ
あつら^シ司^シをねんおま^シおま^シのむ^シよ^シ
あつら^シ司^シをねんおま^シおま^シのむ^シよ^シ

招加^シ

のちよ代危が孫とくまうやのひろさく邦と
いりさやうの十ありてまうもまくが
まのふだらう「五」ま代危のひろさく孫の
まじしひまうと孫「吉」ちがまやまうと
りりり孫とくまうまのまうとて孫「招」あり
ぐまうと「吉」けい「イ」が「口」ままやまうとくまう
ちまうとまうまう孫の孫とくまうとくまう
必来やまうこのま。スルトまうまう孫とくまう

やうとくまやアがまうとくまやうか
まやのまをまうまがまうアまう
あまやまおまがまうにあまが一本
あまとくまやまうまのまアおま
一本ありやアあまのまをまうま
くまとまうまのまのまのま
まうまのまのまのまのまのま
まけ孫がまのまのまのまのま

とらうがその孫といふやううぬが
ぢふの一切を出しとまんどうこうア
ぢうがふあどがどイトりやん
かうりちがいふにや。まんあことせりあ
てあつちやうけあまう移ん。ちやエツ
はがうあぢといふ物アぢんぢあいうを
をはううまをどまうは内アうまう移ん
まう。ぢんかにあどがどりつてまんま

のひそのをうううりやアうううッ
ちやアヤやまあやア移ん コリヤアまこあ
まんぢこのあまうはどりれりうぢん
であぢんやまれどまうれまやと女席と
いふまのアはががうくまうちやれり
よふにやあつりやせんその付^{つき}らんちが
やううしたるナニサ 氣ふううぬあど
あううにうれぎりぢちのううぢうぢら

ほぐりて吉まごモウリつへエくまへと秋ののび
が出来る国ナカサもぬふふそのひあざと
ゆふあふらんどもささこまきぢにほつこ
ことばめんぐあせく国正のちぢにまつげ
かんでもよみこざりやしやう孫国そうさく
吉このつアぢひちふりぢあれもんご唄
せくまみぢらうことなうしあんてもよござり
と申やま国モよく吉さんそれ地ぢぢぢぢぢこあに

キトまどぢふらんぐあせく「吉ぢぢぢま
さうらふまアぢぢぢぢぢぢやせう「麻がさん
大あぢらうと町。さうアよござりやせう
ぢらうと町のけごめの屋つりぢぢぢぢぢ
やリ麻のさむぢア大う免がまらうぢぢ
おりやまもぢぢぢぢぢぢぢ麻のこぢぢぢぢぢ
のぬま吸めのとりふらうらうぢぢやアぢぢぢぢぢ
う十あらうほご大うみぢぢぢありのぢぢぢ

がくあせへ 司こひふはひしあありコウヤ
かーちやアきくごちう糸引れずうくとこ
の福ぞめートバグーのやアはまりやせん
五ホウグてんくこいづ福ぞめーんぬま^子
と人けりうきぬとヤセもあありまぬ
りうごがやのむりうらうらう刊い
ませうのめち成やうーいけしき^子飲あれ
司きーおーでれちうごがもく^子まや

あふあうや^子ぬり主とまもあうのあふ
ぶんあにある司ゆちがあにあるエぞあうで
山のりもがうれぎあありやま糸ト^子りう
りうあくおやち急文よりかえりーゆぐ^子者せ
り^子げ^子次^子司^子サア^子ま^子る^子きん^子お^子あ^子ら^子く^子の^子さ^子う^子れ^子が^子糸^子
あしと錦^子ホウ 何ううま^子れ^子抱^子つ^子く^子モ^子こ^子あ^子
の三つ物ちあんどござりやま^子チヨイト^子ん^子だ^子
さうちがまづあんまんのあまのちあらあ

とだつふ大あがりつものうんたんあど糸それ
 り兒がまうけしものもあふめうそうのうめ
 ろふあまひのやううにぶごちあつれん
 むんのぞれぶりとおがしれた物ちあんぞ
 ござうやに招角松くしやうのふれちそあいさ
 吉此りーせううとつふやほアよんとさう
 とにが松まつ中ちゆう中ちゆうさうさうさうあんの事ア
 福ふくくく各かく塔たつ音おん半はんののららうう名なららここよよふふああり

中ちゆうままとと五ごつつくくくくももささううせせ半はんののけけつつのの十じゆ五ご
 ちんちんどど招まうききああくくりりーーああんん半はんよよああーーに
 おあおぐぐんんううせせくく全ぜんりりーーままんん川せんさんさんうううう
 石いしののささちちふふううたただだひひとと輕けいののままたたははくく
 つつららままききつつ中ちゆうううどど糸いと招まうつつけけ合あををががぶぶううも
 糸いとののちちんんぶぶららままののううううけけふふささじじ
 ううららふふううままささううああんんららうう福ふくふふららままじじ
 せせううゆゆららああららももままささうう福ふくくく端たんそそううと

かましのそぐやきなのしくだあらしびを
まのあをりのちく司りしをねをうな
きうどがりれりのがあをいさねだ縁
全ナホ ぞねをうううどコウスくそ
或百文より安イものふるぬのさ司され
トやさうりそタミヤーあやと出ぶ
しやア縁くがせうううじやちんちん
おやぢらぬ六章あたらふうまきの天正

十一

むしでひでやらのちやらんしを
めんをつひこのぬと十六あぐう
ゆうやしとがあううやほうゆ
そのぞ縁全をせうまておがちぐう
司まうのまうちがうとあがちぐう
やしやう全ちささ司をせうらうじ
やしううううくもちじやうらう
スうやう一とあううのさあ十と

あつらうめのごとく〜至附おらじ
う〜まがらう〜終ま〜會う 罰 コリヤアモ
だ〜んころぶれぞおざりう終まん那
るア〜くま〜ん〜お〜福くとあ〜とど
うれ〜終があ〜ん〜げえぶんがらう
ござりやとけ〜ん〜あ〜たの附ま
か〜ん〜の所附のら〜やまの
に山を〜あ〜ん〜か〜ら〜ん〜

十一

と〜が〜氣が移〜ん〜中や〜ら〜お〜ら〜ご
う〜と〜お〜り〜と〜十一〜ん〜ら〜ら〜ら〜ら
け〜ら〜と〜ん〜み〜せ〜れ〜を〜ら〜ふ〜と〜
や〜した〜ら〜ら〜ら〜ア〜又〜八十〜ん〜文〜ぢ〜を〜ぞ
ら〜ら〜ら〜ら〜ん〜た〜ら〜ら〜ら〜を〜ら〜ら〜ら〜ら
湯〜ぞ〜ら〜ら〜ら〜ら〜が〜と〜な〜が〜ま〜ら〜ら〜ら
り〜や〜さ〜ア〜ま〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら
の〜を〜ね〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら〜ら

十一

や〜れたおふ〜と釜かまぎもだちうるまきさう
てさ〜〜や〜や〜う〜の国くに十二あ〜んうちか
かたかたとあ〜のののさ〜をむ〜らんじれ
方かた太たおさむのふよ〜お〜のま〜
とサアとま〜の一いかサテをおよま〜
まぬさ〜のま〜の時ときみみま〜
あひ縁ゆかりのひま〜の画えら出来い〜
た〜の国くにエエイイさ〜の日ひままぬぬををま〜のま〜

が〜の日ひのうちあ〜の出来い〜
ま〜のチチトトおよ〜の一いかサテをおよま〜
か〜のぬぬめんめんあ〜のトト〜のま〜
ら〜のま〜のま〜のま〜
あ〜のま〜の錦にしきあ〜のま〜
さ〜のあ〜のま〜のま〜
合あイイののま〜のま〜の一いかかハイ
は〜のま〜のま〜のま〜のま〜

移んぞごごりしきましと目らりしきみ
ととくあつしうととんと人さふせヨウ
せん錦おむが池いけと詩會しうかいのせんナ方ホウ引
らとらあつたふあしきれやました「錦」
池いけまるともく時とき方かたはくさニヤトウハ
りごごごりまは方かたありのさう池いけぢり
しうがまことふ此こゝせりの輩がい海うみ不ま免えん山門さんもん
入いりを錦にしんあつるけご池いけまんと海うみ招まねき

五風さんらさ〜ガス〜のあ〜ふ海うみをり
山門さんもん申まをせ花はなの山やまと〜海うみケが大おほぶとさ
や〜たがやけをりも〜ご移うつ五ごさや〜か
言ことま〜やア〜がおけら〜たハチツトおとや
あ〜のうチやと五ごせんせ〜ご〜もああり
さ〜むら〜く〜れけ〜ご〜つ〜もかん〜めん
れ〜れ〜吉きち水東みづとうのま〜と〜盛さかふ〜や〜く
ま〜〜移うつ〜の〜り〜せん〜が移うつ〜五ごイヤホ〜ニニ方かた大おほ

りよどくれのむいしつていふおんくがんと
りつをこれいふ候いよけのあつてい
司かろい候とこのまうと馬さつてい
まうをぬらくまうとよいひあつて
あつていふまうとつていふまうと
まうをぬくまうとつていふまうと
まうとつていふまうとつていふまうと
つていふまうとつていふまうと

あのおりていふまうとつていふまうと
あつていふまうとつていふまうと
あつていふまうとつていふまうと
あつていふまうとつていふまうと
あつていふまうとつていふまうと
あつていふまうとつていふまうと
あつていふまうとつていふまうと
あつていふまうとつていふまうと
あつていふまうとつていふまうと
あつていふまうとつていふまうと

まじいばいしう様とまていりやまうけいしるアはせそ
 来^きていしよでいよまいていりやまうけいしるアはせそ
 がくおあねふ馬ねぶんあくらうとアそら
 りふあくたぬくくやの源や茶巾の七が来て
 ぶんくらりせはけくアあんとうもいやう
 せんしてまて六百の鉄^てねくらうせくあそ
 ころりううふしやうくらせくあもま
 日本をのりたがねのさんごんの出来福へこ

由あふあううまねいふうまてくやうが
 うとらけがはつこまんごううまんあしそ
 ちくもあひつぐちねは福くそねぐてあ
 をあがしてまていりやまうけいしるアはせそ
 くらやれ吉むらりやあ日本にあぬがでん
 ねらまていりやまうけいしるアはせそ
 甲はけちやりのく日本にあぬがでん
 国えまていりやまうけいしるアはせそ

あんなぎつさしきまに司たふくしりまあ
まふくくえくちやぶとまがけうみさうせ
げくあんながけのまやいんおもんじや福く
らんれつ福くうこらアあせぶらうけ
おれおさうちくまうひくく司名さんりおの
きふぐしんねくうんぐとけらう福く
司^{ナニ}アニ ころちらんちもだちの孫の中らう
がワノナニ井 馬をほきせくわつりやしたのこ

司^{ナニ} まどがまア福 ほきくくづかーこのせ
孫司イ立 ほれ馬でどぶらうやせがさや
てもあぶアそのらうおしきやせんのお
それおほくくれあさんちらトお孫が
あぶらしやとナイヤそれらたぬらんご
まうらうらうがほくくみならうせうどよ
あぶらうらうせれあはもやう
それしきまきくひあらうがらうち

中さかけらみくろあぬせんう孫おれを
それごとおそれぬ罰 十二うちくろひ孫
ち川ちやアおぢちやせんがア ちと川
ほうとやうさんうそふまふくそとや
しやうモとあうとやうさんいぬおきうま
るさやうこのらけごととやうそやとがどふ
おお孫がぬりあーやき ちとト じやうれ
ぬむしんでごぢちやをまが罰まこととがも

とどふしとあのごと罰たんにばくごぢちや
にぞうのそまうごくぬごうそやと罰まねい
おふかごまごがらぬぬのぢちやう馬さつふ
りれとよくまのぬま川そくあう孫ん
のぬうぬまのどかうま川孫たうぞれ
はぬとあのとらまごちがう罰ッリヤア
おあき川孫とらあふちがうごど
ア中とごあごまぬしとまやかりとてえ

まんぞうぶつしやんが刑イヤ
 人たまけおろやくめドヤまろ絲
 のほろのなろう十福んでまろぶ
 ろろおろまんトヤどろもるれつ
 とめろろそれ多千部で毛さつけ
 ぶろをろおろし中い周ナアニそんあて紙
 ろひのドヤぶろりやらんたつてまろあさろ
 ろれハろおろふをろ色やと

文化六己巳春發兌

東都

書舎

馬喰界二丁目

山城屋藤右衛門

横山町三丁目

山崎屋宗助

けい

